

■このコーナーを担当したのは、

古谷 久美子さん（西谷貝）

未来ある子どもを、自分たちの手で守ろう

昨今、広島市や今市市の事件など、登下校中の子どもにかかわる痛ましい犯罪が多発しています。そんななか、自分たちの子自分たちの手で守ろうと、保護者や自治会が立ち上がっています。菅谷地区でも、地域子ども安全ボランティアのメンバーが中心となって、自警団が結成されました。雨の日も風の日も、下校時の見守りを続けている菅谷地区自警団を紹介します。

地域が一丸となり自警団を結成

筑西市では、各地区に防犯協会の分会があり、そこから、自発的に15もの自警団が結成され活動しています。西に国道294号、中央を国道50号が走り抜ける菅谷地区でも、子どもたちを交通事故から守ろうと、自警団が結成されました。

菅谷地区では、平成16年、市の呼びかけにより、地域子ども安全ボランティアがスタート。その後、自治会・老人会・婦人会・育成会の協力で会員を募集し、自警団を組織しました。現在、35人が登録し、田口博司会長のもと活動しています。「未来ある子どもたち、夢を持っている子どもたちを犯罪から守りましょう」をスローガンに、通学ルートを重点的に見守るとともに、あいさつを通して、子どもたちと心の触れあう温かい地域づくりを目指しています。

私も、子どもたちと自警団の方と一緒に、通学路を歩いてみました。伊讀小学校を出て

国道50号を越え、旧50号を通って、今度は国道294号を渡ります。信号待ちをしている子どもたちの前を走り抜ける車のスピードには驚いてしまいました。途中何か所か父兄の方が見守っている姿もありました。交通量の多い危険な場所を登下校していますが、自警団のみなさんの活動もあって、菅谷地区では今まで事故や犯罪は起きていないそうです。

子どもたちとふれあいながら

田口会長に「大変なことは」と質問すると、「継続することですね」と一言。常時30人を確保し、一人あたり月2回、3人体制で低学年・高学年それぞれの下校時間にパトロールすることは、容易にできることではなく、頭の下がる思いがしました。

2年間、自警団の黄色い帽子を被ったおじさん、おばさんと一緒に歩いてきた子どもたちも、今ではすっかり安心し、信頼関係が築かれているようです。ある方は「子どもたちに『おじさん、もう少し早く歩こうよ』と言

われたりするんですよ」と、笑顔で話してくれました。伊讀小学校では、子どもたちが種から育てた花の鉢と手紙を自警団のみなさんに贈っています。それを手にした時は、ほっと心が和むそうです。

子どもを守ろうと、ボランティアのみなさんが活動しています。私も自分の子どもだけ守ろうとするのではなく、周りの子どもたちにも心を配れる勇気を持ちたいと思いました。



▲自警団のみなさんに見守られて下校する子どもたち